



ハラスメントは「いやがらせ」「いじめ」を指す言葉です。身体的・精神的な攻撃などによって、他者に不利益・ダメージを与えたり、不愉快にさせることを意味します。

パワー ハラスメント

上の立場の人が、権力や権限を利用して弱い立場の人に苦痛を与えること。

たとえば…

「言うことをきかないならご飯を食べな」
「〇〇ができるまで眠らせない」
「気に入らなければ家を出ていけ」と脅す。

エディケーション ハラスメント

教育という名の行き過ぎた指導やしつけを理由に苦痛を与えること。

たとえば…

残した給食を食べきるまで許してもらえなかったり、指示通りしないと内申点を下げるなど弱みを利用して脅したり体罰をあたえる。

モラル ハラスメント

相手の意思に反して自分の価値観やモラルを押しつけ、できないと厳しく咎める。

たとえば…

子どもに完璧を求める。親と同じでいるように求める。子どもの人格や存在を否定する。子どものニーズを無視する。

スポーツ ハラスメント

指導者から強られる時代にそぐわない要求



あなたのその言動

ハラスメント

じゃないですか？

ジェンダー ハラスメント

性に関するイメージや固定概念で決めつけたり、差別したりすること。

たとえば…

「男のくせに、女のくせに」と公に非難したり、不快感を態度や行動で示したりする。また、※トランスジェンダーの女子が男子の制服で通学することを問題視される。

ソーシャル ハラスメント

SNS上でのいじめ



親からのハラスメント

子どもへのハラスメントは親から受けることが最も多いです。日本ではよく子どもを「授かりもの」と言います。もらったもの＝自分のものという価値観が無意識にあるので、厳し過ぎるしつけをしたり、他人には言えないような言葉を投げつけてしまいます。子どもは決して親が「もらった」ものではありません。人生で一番大切な時期を預らせてもらっているのだという意識を持つことでハラスメントは避けられるのではないのでしょうか。

指導者からのハラスメント

今でもスポーツの世界では、監督やコーチ、先輩の言うことは絶対で何を言われても我慢する空気が流れていることが多いようです。過度な練習を強いたり、罰を与えたり、試合でのミスを全員の前で叱責する、時には存在自体を無視したりすることもあると聞きます。一部では根性論が今も生きていますので、こういった指導に耐えられない方が弱いのだと思われがちですが、成長途中の子どもたちには耐え抜くのが当たり前ではありません。やらされるのではなく、自ら集中し取り組み創意工夫するような指導が求められています。

セクシャル ハラスメント

嫌がる相手に性的な発言や行動をすること。

子どもの場合…

大人から「他の子もやっていることなんだよ」「二人だけの秘密だよ」などと言われると子どもは嫌だと思いつつも被害を誰にも言えなくなる。また、その罪悪感を相手ではなく自分に向ける傾向があり、リストカットのような自傷行為を繰り返すことも多い。

